

消防署だより

名所と歴史紹介

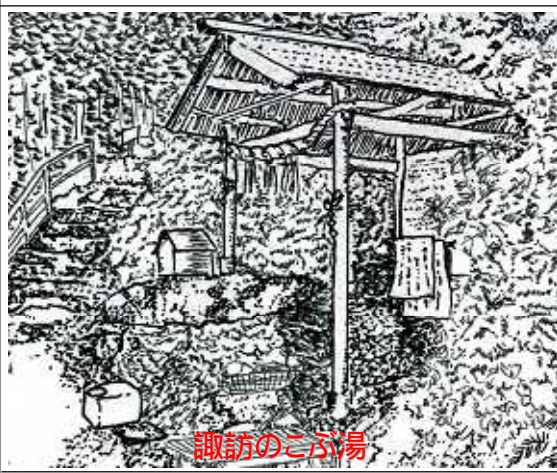
白山署の巻

諏訪のこぶ湯

津市の南西部の山間地域に位置する白山町南家城に家城神社があります。家城神社の境内地に「諏訪のこぶ湯」と呼ばれる冷(霊)泉があり、遠方から泉を汲みに多くの人が訪れます。

「諏訪の・・・」とは、家城神社はもととはといえば「諏訪神社」であり、明治四十一(一九〇九)年にこの地に、近隣の神社や祠など、十六社を集めて祀り家城神社とされたことからです。土地の人々は今も当神社のことを「諏訪さん」と呼んでいます。

雲出川の右岸、岩石の中から湧き出るこぶ湯は、白い湯の花と硫黄の香り高く、この冷泉を汲みとり、諏訪明神に祈願して塗布すれば、「こぶ」が取れると言い伝えられており、その名がついたと言われ、産婦の乳不足などにも霊験あらたかと言われています。



諏訪のこぶ湯

また、「日本書紀」には、この地に住む湯人、盧城部連積筥(いほきべむらじきこゆ)、武彦父子と斎王である栲幡皇女の話が伝えられています。これは家城神社の裏手にある「こぶ湯」という冷泉にまつわる物語とされています。

こぶ湯は、口コミなどで伝わり、大勢の行列ができるほどです。利用時間は24時間で無料となっていますが、毎週火曜日と木曜日は地域住民限定日となっています。また、大人ひとりが一度に20リットルまでと制限されています。

ぜひ、この機会に「諏訪のこぶ湯」の効能をあなたもお試しになってはいかがでしょうか。

後世に引き継げ! 貴重な文化財を

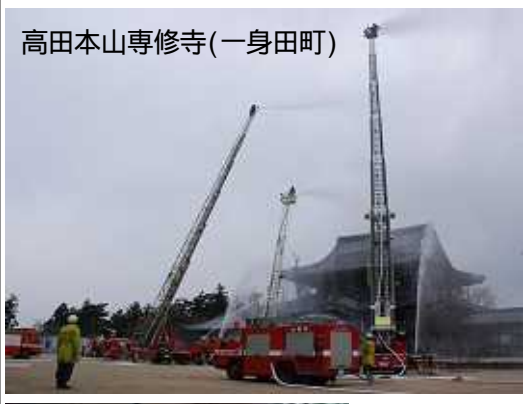


高田本山専修寺
大地震想定し
防災訓練を実施

文化財防火デー(二月二十六日)を前に、津市消防本部と地域の消防団が同月二十五日、同市一身田町の高田本山専修寺の他、八町三丁目の谷川土清旧宅、一志町小山の青巖寺の三方所で防災訓練が行われました。

高田本山専修寺の訓練では、津市消防本部と同市教育委員会の他、津消防団北部分隊(栗真、白塚、一身田、大里、高野尾分団)、同市婦人防火推進委員会、一身田地区自主防災組織と同地区住民、同本山専修寺自衛消防隊など約百四十人が参加して行われました。

消防訓練では、震度六強の大地震が発生、国の指定重



高田本山専修寺(一身田町)

要文化財の如来堂の一部が倒壊するそくが転倒して出火したという想定。参加者は負傷者の救出救護や文化財の搬出、水消火器やバケツリレーなどによる初期消火訓練に熱心に取り組んでいました。最終は同市消防本部の梯子車三台とそれぞれの消防団車両などから如来堂に向けて一斉放水が行われました。

訓練好評で津市教育長に続き、野田重門消防長は、「津市消防本部管内では、住宅火災の死者が多発しています。皆さんの住宅も文化財に勝るとも劣らず大切な財産です。住宅用火災警報器を設置するなど防火に努めて下さい。」と呼び掛けました。



谷川土清旧宅(八町三丁目)



青巖寺(一志町小山)